



2019年5月期 決算概況

証券コード：3501
(東証一部上場)



目次

■ 表紙	01	■ 2020年5月期 連結計画	14
■ 目次	02	■ 2020年5月期 事業セグメント別計画	15
■ 2019年5月期(2018/6~2019/5) 連結業績	03	■ 株主還元について	16
■ 連結業績の事業セグメント別内訳	05	■ 第5次中期3カ年経営計画「2020」	17
■ インテリア事業	06	■ コーポレートサイトのリニューアル	19
■ 自動車・車両内装事業	07	■ 鉄道車両内装の歴史展	20
■ 機能資材事業	10		
■ 連結バランスシート	11		
■ 設備投資・減価償却費	12		
■ 有利子負債	13		

2019年5月期 (2018/6～2019/5)連結業績

(単位:百万円)

	当期	前期	前期比増減		期初計画	期初計画比増減	
			(率)	(額)		(率)	(額)
売上高	98,617	97,872	+0.8%	+744	97,500	+1.1%	+1,117
営業利益	3,118	2,247	+38.8%	+871	3,100	+0.6%	+18
営業利益率	3.2%	2.3%			3.2%		
経常利益	2,956	2,358	+25.3%	+597	3,350	△11.7%	△393
経常利益率	3.0%	2.4%			3.4%		
当期純利益	467	1,083	△56.9%	△616	1,900	△75.4%	△1,432
当期純利益率	0.5%	1.1%			1.9%		

為替レート	当期	前期
(USD/JPY)	111.07	110.71

※ 当資料の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を表している。

2019年5月期 (2018/6～2019/5)連結業績

売上高 **986**億17百万円

前期 978億72百万円 計画 975億円

営業利益 **31**億18百万円

前期 22億47百万円 計画 31億円

経常利益 **29**億56百万円

前期 23億58百万円 計画 33億円50百万円

親会社株主に帰属する
当期純利益 **4**億67百万円

前期 10億83百万円 計画 19億円

外部環境

国内経済は、雇用、所得環境が緩やかな回復基調を持続し、企業収益も底堅く推移したものの、米中貿易摩擦の長期化の懸念等から先行きに対する警戒感が強まった。

連結業績の事業セグメント別内訳

(単位:百万円)

	当期	前期	前期比増減		期初計画	期初計画比増減		
			(%)	(額)		(%)	(額)	
売上高	インテリア	34,282	34,329	△0.1%	△46	35,450	△3.3%	△1,167
	自動車・車両内装	60,304	59,758	+0.9%	+545	58,140	+3.7%	+2,164
	機能資材	3,886	3,647	+6.6%	+239	3,780	+2.8%	+106
	その他	143	137	+4.5%	+6	130	+10.7%	+13
	合計	98,617	97,872	+0.8%	+744	97,500	+1.1%	+1,117

	当期	前期	前期比増減		期初計画	期初計画比増減		
			(%)	(額)		(%)	(額)	
営業利益	インテリア	263	33	+691.6%	+230	210	+25.5%	+53
	自動車・車両内装	4,018	3,331	+20.6%	+686	4,180	△3.9%	△161
	機能資材	186	176	+5.5%	+9	140	+33.1%	+46
	その他	78	68	+15.7%	+10	80	△1.4%	△1
	調整額	△1,427	△1,361	-	△65	△1,510	-	+82
	合計	3,118	2,247	+38.8%	+871	3,100	+0.6%	+18

インテリア事業

カーペットを中心にカーテン、壁紙等を販売

(単位:百万円)

	当期	前期	前期比(率)	前期比(額)
売上高	34,282	34,329	△0.1%	△46
営業利益	263	33	+691.6%	230

■ 業務用カーペット

売上は前期を上回った。インバウンド需要を受け、宿泊施設や商業施設等の新築およびリニューアル案件が増え、フックカーペットやロールカーペットが好調に推移した。水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®」は、海外輸出は伸び悩んだが、国内市場は大型案件もあり前期並みに推移した。

■ 一般家庭向けカーペット、ラグ・マット

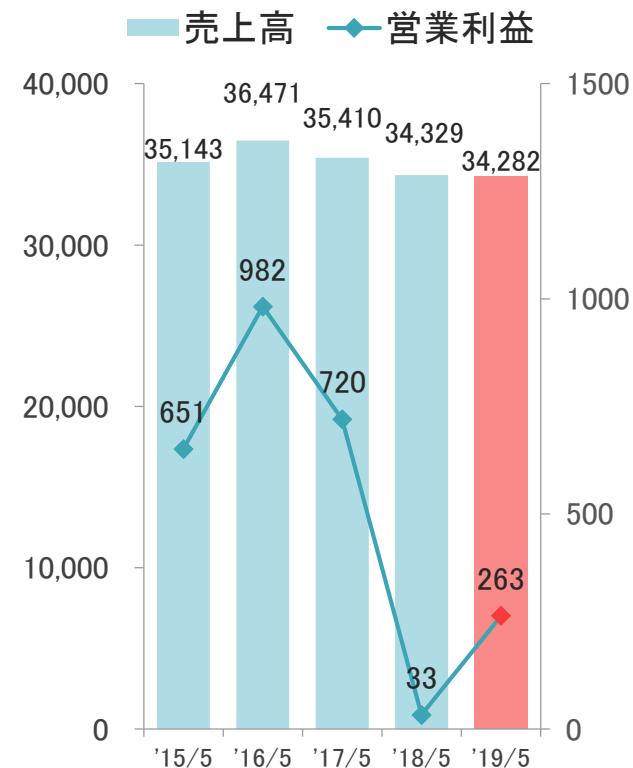
市場環境の低迷を背景に売上は前期を下回った。

■ カーテン

医療・福祉・教育施設向けのカーテン「Face」が大型案件の受注により好調に推移し、2018年7月に発売した一般家庭向けカーテン「U Life® Vol.9」も前期の同シリーズを上回ったが、「mode S® Vol.8」等が伸び悩み、売上は前期を下回った。

■ 壁紙

2019年2月に発売した量産タイプは伸び悩んだが、リフォーム向けの壁紙や襖紙等が好調に推移し、売上は前期並みとなった。



自動車・車両内装事業

(単位:百万円)

	当期	前期	前期比(率)	前期比(額)
売上高	60,304	59,758	+0.9%	+545
営業利益	4,018	3,331	+20.6%	+686

自動車内装事業 フロアカーペット、シート地、天井表皮材等、自動車内装材をトータルで販売

■ 国内

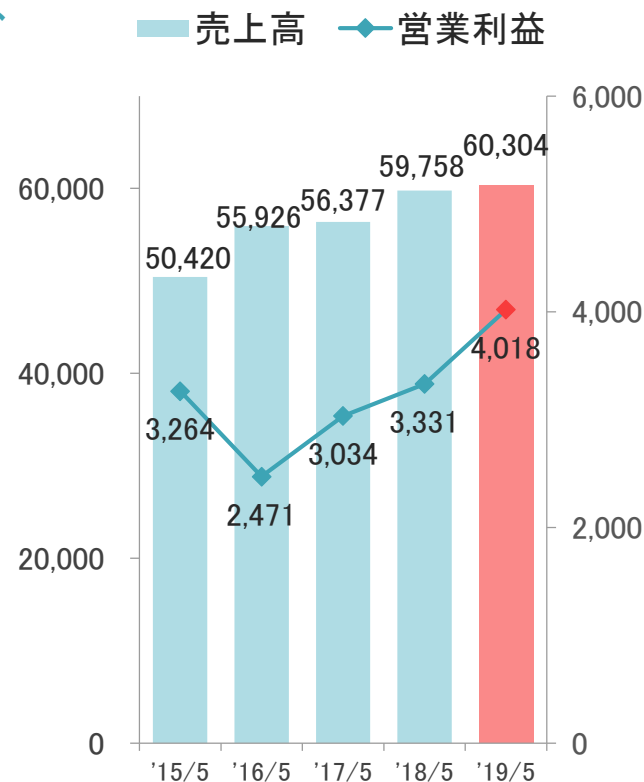
当社グループが内装材を受注した車種の新車効果が一巡したことに加え、原材料費および物流費の高騰が影響し、売上、営業利益ともに前期に届かなかった。

■ 海外

中国では日系自動車メーカーの販売拡大が奏効し、タイでも堅調に推移した。また、メキシコでは、新規商材の受注により好調となり、北中米全体の営業利益は前期を上回った。よって、海外全体では、売上、営業利益ともに前期を上回った。

自動車内装事業全体

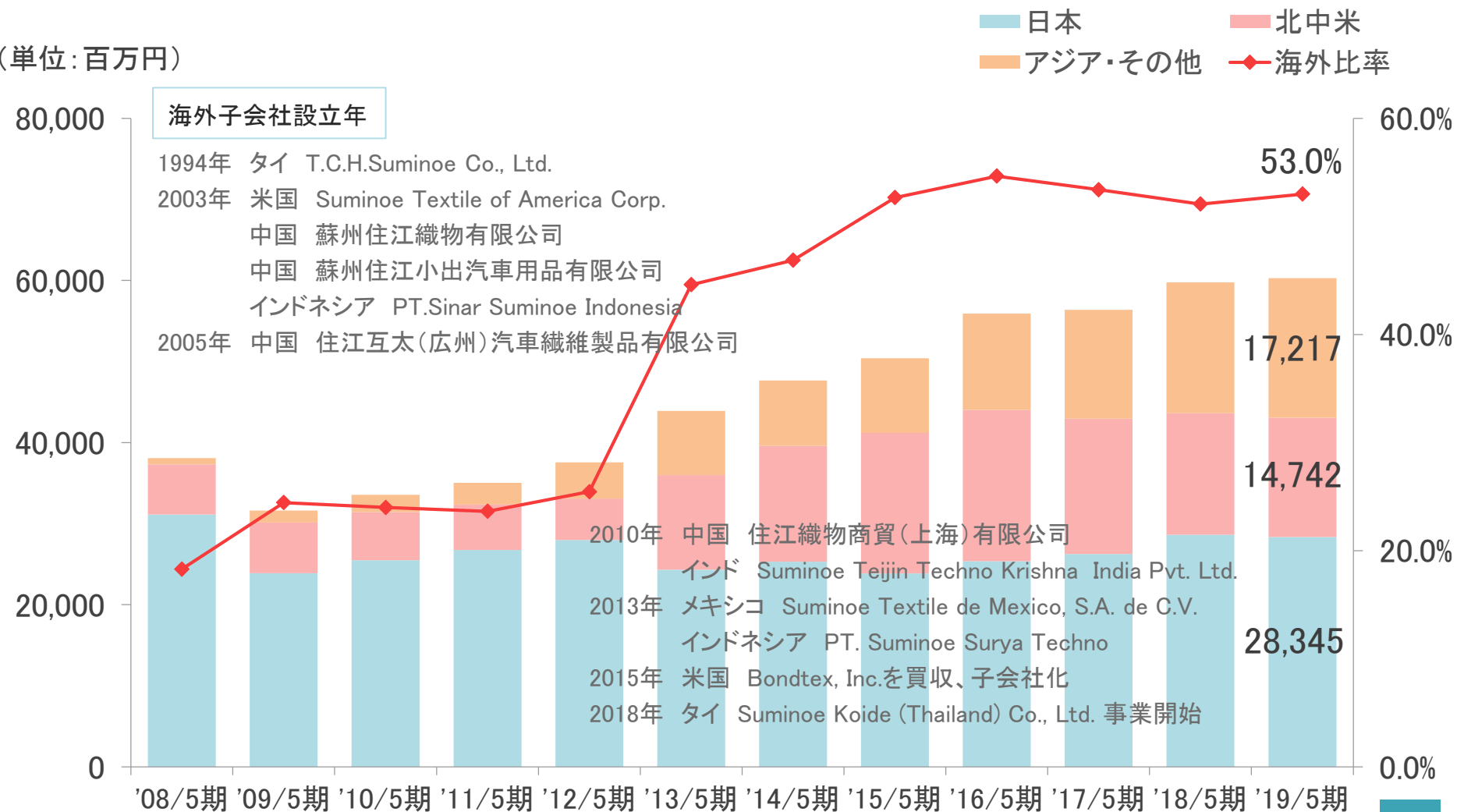
売上、営業利益ともに前期を上回った。



自動車・車両内装事業

自動車・車両内装事業における海外売上高推移

(単位:百万円)



自動車・車両内装事業

車両内装事業

鉄道・バス・航空機・船舶にシート地やカーペット、リサイクル性に優れたシートクッション材「スミキューブ®」等を販売

■ 鉄道向け

JRおよび私鉄の新車案件やリニューアル案件の受注が堅調に推移した。また、非繊維商材の販売も好調となり、売上は前期を上回った。

■ バス向け

前期に引き続き大型バスの需要が回復せず、新車生産およびリニューアルともに低調となり、売上は前期を下回った。

■ 航空機向け

前期並みの売上となった。

車両内装事業全体

売上は前期を上回ったが、営業利益は下回った。

機能資材事業

機能性資材、ホットカーペット、独自消臭加工技術によるフィルター等の販売等、
新たな分野で事業を展開

(単位:百万円)

	当期	前期	前期比(率)	前期比(額)
売上高	3,886	3,647	+6.6%	+239
営業利益	186	176	+5.5%	+9

■ 消臭・フィルター関連

新規受注の獲得および暖房機向け消臭フィルターが好調に推移し、増収増益となった。

■ ホットカーペット

受注数を伸ばし増収増益となった。

■ 建築・土木用資材／ブラシ用毛材「KEAT-貴糸®」

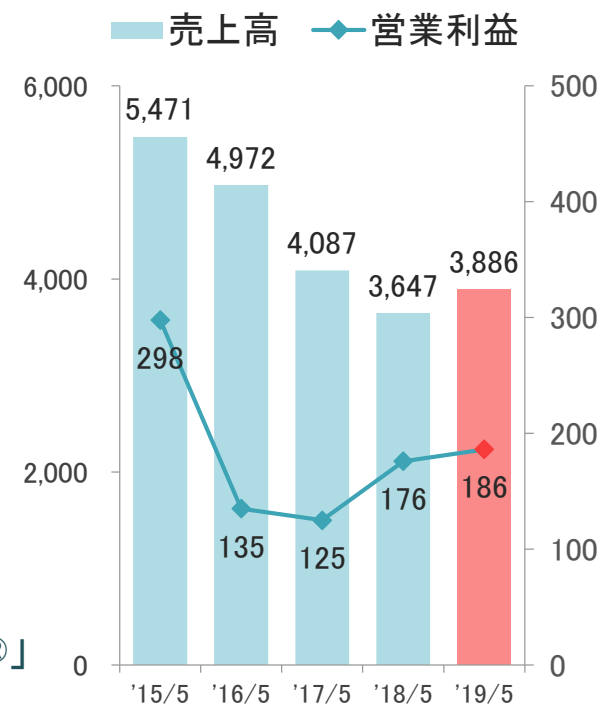
堅調に推移し、増収増益となった。

■ 浴室向け床材

減収となった。

■ 学童向けマット／ダストマット向けポリエステル長繊維「スミトン®」 ／航空機向けカーペット

振るわず、減収減益となった。



連結バランスシート

(単位:百万円)

	当期	前期
資産	87,975	92,181
現預金	7,880	9,531
売上債権 ※電子記録債権含む	23,854	23,056
たな卸資産	15,666	16,634
その他の流動資産	3,237	3,547
有・無形固定資産	27,782	28,224
投資その他の資産	9,554	11,187
負債	52,704	53,639
仕入債務 ※電子記録債務含む	19,618	19,354
短期借入金	9,755	13,588
その他流動負債	4,405	4,929
長期借入金 ※社債含む	8,793	5,808
その他固定負債	10,131	9,959
純資産	35,271	38,541
資本金	9,554	9,554
資本剰余金	2,652	2,652
利益剰余金	10,777	10,822
自己株式	△ 2,423	△ 364
その他有価証券評価差額金	1,913	3,154
土地再評価差額金	7,797	7,797
その他評価・換算差額	317	441
非支配株主持分	4,682	4,484

現預金

自己株式の買付等により、前期末比16億50百万円減の78億80百万円となった。

たな卸資産

在庫圧縮に努め、前期末比9億67百万円減の156億66百万円となった。

投資その他の資産

保有株式の時価下落等により、前期末比16億33百万円減の95億54百万円となった

借入金(短期・長期・社債)

返済を進め、前期末比8億47百万円減の185億48百万円となった。

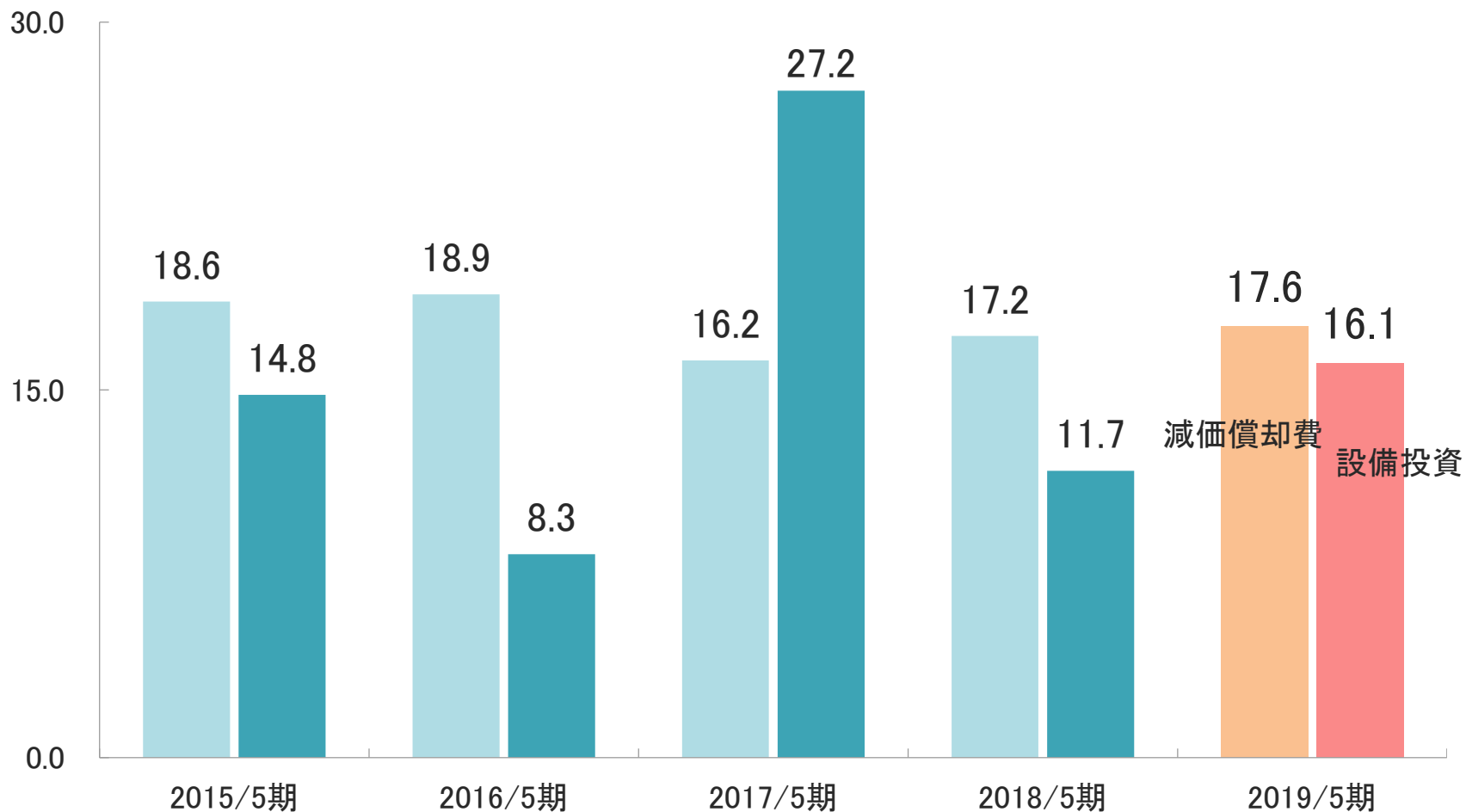
自己株式

自己株式の買付により△24億23百万円となった。

設備投資・減価償却費

(単位:億円)

■ 減価償却費 ■ 設備投資

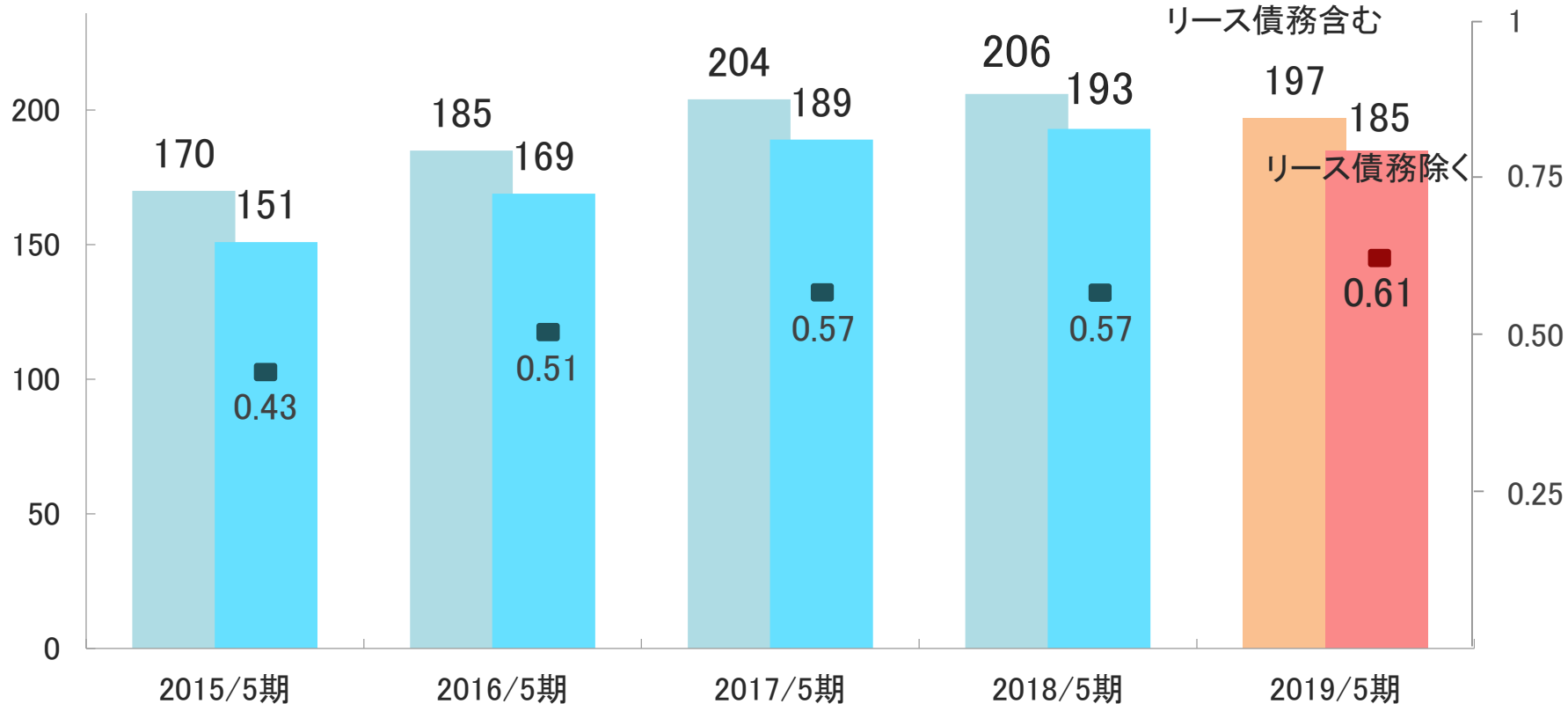


有利子負債

■ リース債務含む ■ リース債務除く ■ DEレシオ

(単位:億円)
有利子負債額

(単位:倍)
DEレシオ



※DEレシオ... $\frac{\text{有利子負債(リース債務除く)}}{\text{純資産(非支配株主持分除く)}}$

2020年5月期 連結計画

売上高 960 億円

(2019年5月期 986億17百万円)

営業利益 26 億円

(" 31億18百万円)

経常利益 28 億円

(" 29億56百万円)

親会社株主に帰属する

当期純利益 13 億円

(" 4億67百万円)

国内経済は、緩やかな回復を続けているものの、10月に予定されている消費税増税や、海外における世界経済の減速や米中貿易摩擦等のリスクにより、先行き不透明な状況が続いている。

基幹システムの再構築により経営基盤を強化しつつ、インテリア事業では、インバウンド需要の取り込みや、自動車内装事業では、新規商材の拡充と海外におけるQCD(品質・価格・供給)の充実を進めていく。

2020年5月期 事業セグメント別計画

(単位:百万円)

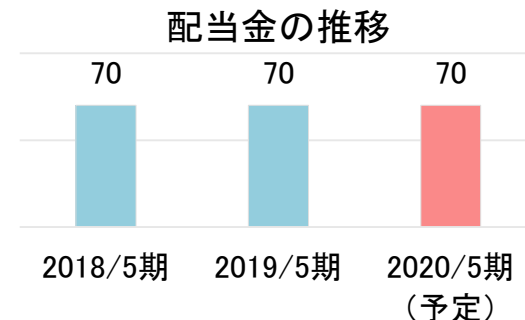
売上高		2020年5月期	2019年5月期	前期比増減	
				(率)	(額)
	インテリア	34,720	34,282	+1.3%	+437
	自動車・車両内装	57,270	60,304	△5.0%	△3,034
	機能資材	3,870	3,886	△0.4%	△16
	その他	140	143	△2.8%	△3
	合計	96,000	98,617	△2.7%	△2,617

営業利益		2020年5月期	2019年5月期	前期比増減	
				(率)	(額)
	インテリア	300	263	+13.9%	+36
	自動車・車両内装	3,850	4,018	△4.2%	△168
	機能資材	60	186	△67.8%	△126
	その他	90	78	+14.1%	+11
	調整額	△1,700	△1,427	-	△272
	合計	2,600	3,118	△16.6%	△518

株主還元について

■ 配当金について

- 2019年5月期は、中間配当は35円で実施、期末配当は35円を予定。
- 2020年5月期は、中間、期末ともに1株当たり35円、合わせて年間70円を予定。



※株式併合後を基準に算出した数値を表示。

■ 自己株式の取得について

- 2019年1月11日開催の取締役会において、自己株式取得について決議。

取得の理由	経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行および株主価値の向上を図るため
株式の総数	600,000株(上限) (発行株式総数(自己株式を除く)に対する割合 8.46%)
取得価額の総額	1,800,000,000円(上限)
取得期間	2019年1月15日～2020年1月14日
取得方法	自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)を含む市場買付け

- 2019年6月30日までに取得した自己株式累計

株式数: 263,300株 取得価額の総額: 662,597,100円

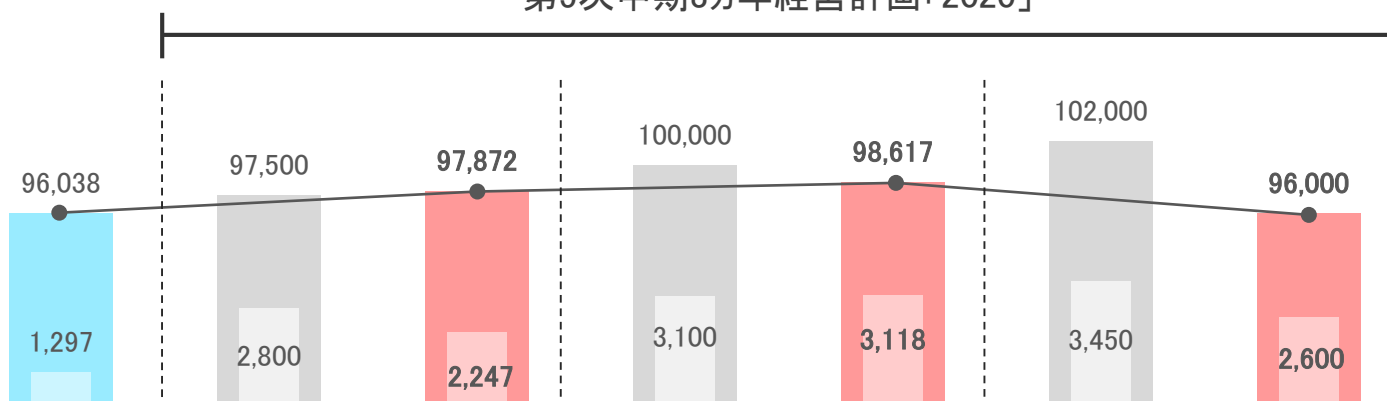
第5次中期3カ年経営計画「2020」

2017年6月にスタートした第5次中期3カ年経営計画「2020」では、「**企業ガバナンスの再構築**」と「**事業の成長**」という2つのテーマのもと、諸施策に取り組んでおります。

○連結数値目標

- 売上高
- 営業利益

第5次中期3カ年経営計画「2020」



	2017年5月期	2018年5月期		2019年5月期		2020年5月期	
	実績	策定時計画	実績	策定時計画	実績	策定時計画	期初計画
売上高	96,038	97,500	97,872	100,000	98,617	102,000	96,000
前期比	98.5%	101.5%	101.9%	102.6%	100.8%	102.0%	97.3%
営業利益	1,297	2,800	2,247	3,100	3,118	3,450	2,600
営業利益率	1.4%	2.9%	2.3%	3.1%	3.2%	3.4%	2.7%
経常利益	1,364	2,950	2,358	3,350	2,956	3,750	2,800
親会社株主に 帰属する当期純利益	26	1,500	1,083	1,900	467	2,200	1,300
ROE	0.1%	4.5%	3.2%	5.5%	1.4%	6.0%	4.5%

第5次中期3カ年経営計画「2020」

取り組んでいる課題

1. コンプライアンス遵守ならびに管理体制の見直し

経営幹部と従業員が情報共有し、双方向コミュニケーションを図りながら、一体となって諸問題の解決にあたるため、以下の施策に取り組んでおります。

- 全社統一フォーマットによる「週報」・「月報」の報告義務化
- 経営幹部による「歩き回る経営」

2. 基幹システムの再構築

収支や在庫をタイムリーに把握、経営判断に活かし、また、効率的かつ効果的なモニタリングを行うため、グローバルで基幹システムの再構築を進めております。

3. 事業の拡大

お客様のニーズに柔軟かつタイムリーに応えるべく、以下の3つのテーマのもと、果敢にチャレンジしてまいります。

- 取扱い商材の拡大
- グローバル化の強化
- 高付加価値商材の開発・販売

コーポレートサイトのリニューアル

住江織物グループ 7社のサイトリニューアルを実施

- 各社のターゲットに合わせてデザインとコンテンツを刷新し、住江織物グループのブランド力強化を図りました。



鉄道車両内装の歴史展

ショールームの新しい活用方法として、企画展示を実施中。



大阪市電(明治)



東京市電(大正)



日本郵船八阪丸(大正)

● 開催概要

開催日時 2019年8月30日(金)まで
10:00 ~ 17:00 (日・祝 休館)

開催場所 住江織物株式会社
本社ビル ショールーム内

東京ショールーム
でも開催予定

明治く大正・昭和のモケット

鉄道車両内装の歴史展

住江織物株式会社

日本の鉄道黎明期のシート地をご覧いただける貴重な機会ですので是非ご覧ください

■ 当資料の将来見通しに関するリスク情報

当資料における当社の今後の計画、戦略等の将来見通しに関する記述は、現時点で予測可能な合理的判断に基づいて作成されたものであり、実際の業績は、今後様々な要因で異なる場合がございます。